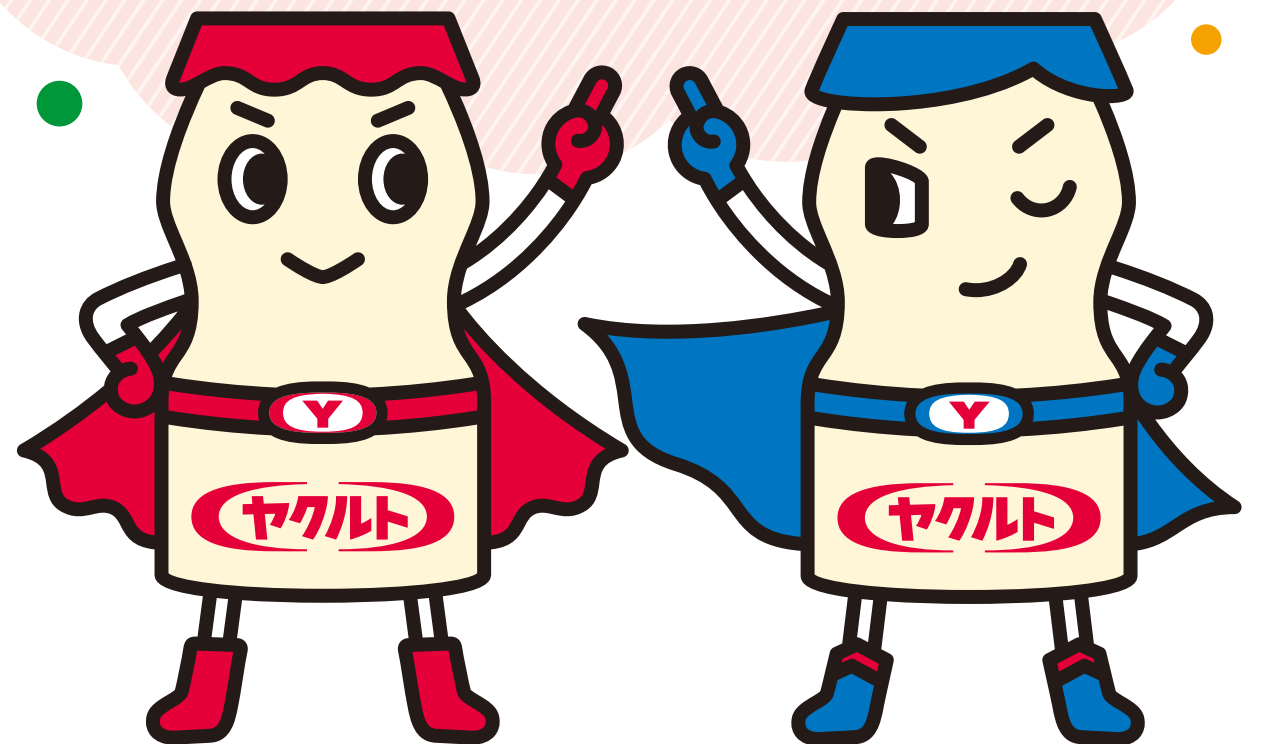


人も地球も健康に
Yakult

ヤクルト CSRコミュニケーションブック 2020



株式会社ヤクルト本社

〒105-8660 東京都港区海岸1丁目10番30号

お問い合わせ先 広報室 CSR推進室
TEL(03)6625-8960(代表)
FAX(03)6747-8009

ウェブサイトアドレス <https://www.yakult.co.jp>

公開 2020年10月

次回公開予定 2021年10月



ヤクルトCSRレポート
2020(76ページ)は
上記QRコードからご
覧いただけます。



この印刷物に使用している用紙
は、森を元気にするための間伐と
間伐材の有効活用に役立ちます。



本冊子は、地球
温暖化原因物質
の一つとされて
いる揮発性有機
化合物(VOC)
を含まないイン
キで印刷されて
います。



ヤクルトに息づく想い

ヤクルトの創始者で医学博士の代田 稔が京都帝国大学(現在の京都大学)で医学の道を歩みだしたのは1921年。その当時の日本はまだ豊かとはいえず、衛生状態の悪さから感染症で命を落とす子どもたちが数多くいました。そんな現実にも胸を痛めていた医学生時代の代田は、病気にかかってから治療するのではなく、病気にかからないようにする「予防医学」を志し、微生物研究の道に入りました。そこで乳酸菌が腸の中の悪い菌を抑えることを発見、強化培養により生きたまま腸に到達させることに成功しました。それが、今日「乳酸菌 シロタ株」と呼ばれる「ラクトバチルス カゼイ シロタ株」です。その後、代田は、生きて腸内に到達し、有用な働きをする「乳酸菌 シロタ株」を、一人でも多くの人々に摂取してもらうため、有志とともに安価でおいしい乳酸菌飲料として製品化しました。こうして1935年、乳酸菌飲料「ヤクルト」が誕生しました。世界の人々の健康を守りたい。代田 稔の情熱と発想、飽くなき探究心は、今も、脈々と受け継がれています。

ごあいさつ

どんなときも、皆さまの健康を支えていくために。
商品やさまざまな取り組みを通じて
お客さまと社会のためにできることを考え続けます。

ヤクルトは、事業に関わりが深く特に重要と考える3つの領域「健康」「地域社会」「環境」を中心として、世界中で持続可能な社会を実現するための取り組みを進めています。

2020年、私たちの生活は新型コロナウイルス感染症により一変しました。今、私たちは、お客さま、従事者の安全を守り、社会を支援するためのさまざまな取り組みを世界中で展開しています [▶ P.9](#)。

こうした状況で私があらためて強く意識したのが、代田イズムの一つ「予防医学」です [▶ P.2](#)。もともとヤクルトは、感染症で命を落とす子どもたちを救いたいという代田 稔の想いから生まれた企業です。確固たる研究に基づく商品や、さまざまなサービスの提供をとおして、人々の健康で楽しい生活づくりに貢献するという事業そのものがCSRであり、SDGs [▶ P.7](#)の各目標への貢献に深く関連していると考えています。

状況は刻々と変化することが予想されますが、今後も、商品やさまざまな取り組みを通じてお客さまと社会のためにできることを考え続けます。そのために、引き続きお客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまのお声にしっかりと耳を傾け、CSR活動を発展させていきます。

代表取締役社長

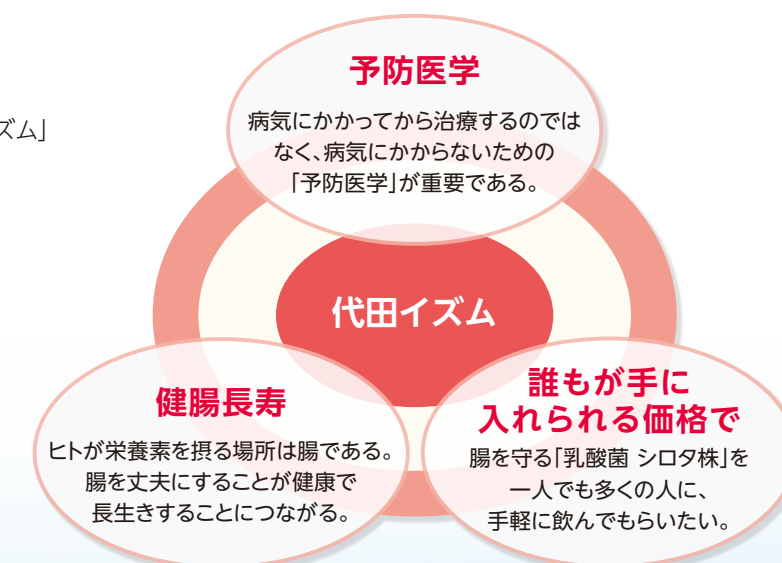
根岸孝成



原点 代田イズム

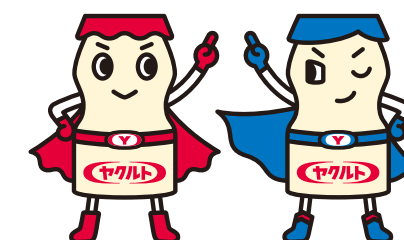
ヤクルトでは、創始者である代田の考えを「代田イズム」と呼び、現在もすべての事業の原点としています。

創始者
医学博士
代田 稔
(1899-1982)



Contents

- 01 ヤクルトに息づく想い／ごあいさつ
- 03 数字で見るヤクルト
- 05 ヤクルトの事業活動とSDGs
- 07 ヤクルトのSDGsアクション
- 09 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するヤクルトの取り組み
- 10 早わかり! ヤクルトのCSR活動
- 11 特集1 健康 健康経営の取り組み**
従事者の元気が会社の未来をつくる
- 13 特集2 地域社会 ベトナムヤクルト**
地域に密着した健康づくり活動を推進
- 15 特集3 環境 水資源の保全**
限りある水資源を守るために
- 17 CSR調達の取り組み
サプライチェーン全体でCSRを推進



みんなのおなかの平和を守る
おなかの味方ヤクルトマンと
ヤクルトマンブルー

数字で見る ヤクルト

世界40の国と地域に健康をお届けしているヤクルトグループ。事業やCSR活動の特徴を数字でご紹介します。

※ 数値は2019年度実績

ヤクルトの創業

1935年

かつてはガラスびんに「ヤクルト」を充填していました。

「ヤクルト」は、1935年の創業以来、80年以上の歴史がある世界中で親しまれている商品です。また、長年にわたって生命科学を追究しており、豊富な研究実績を有しています。

おなじみの「ヤクルト」容器の2011年1月に立体商標として認定されました。

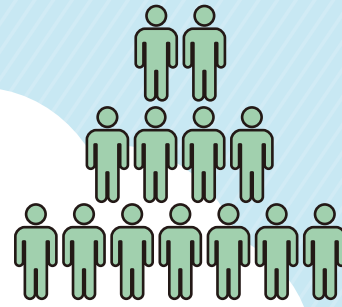


展開している国・地域

ヤクルトが進出している国と地域の販売対象人口

約24億人

世界人口のおよそ3分の1をカバーしています。これからも成長は続きます。



女性の活躍

女性管理職比率

日本 6.7%

海外 24.7%

女性取締役比率

日本 6.6%

対象範囲：日本-ヤクルト本社、海外-海外事業所



世界に広がるヤクルトレディの人数

約8万人

世界で8万人以上のヤクルトレディが、健康をお届けしています。



CO₂排出量

日本
2010年度比

8.1%削減

ヤクルト本社環境行動計画に基づき、着実に環境負荷を削減しています。



水使用量

日本
2010年度比

20.8%削減

CO₂排出量、水使用量の対象範囲：ヤクルト本社、ボトリング会社、物流(特定荷主)

ヤクルトレディによる地域貢献

●愛の訪問活動※

※ヤクルトレディが商品をお届けしながら、一人暮らしの高齢者の安否を確認したり、お話し相手になるという活動

約2,700人のヤクルトレディが

約37,000人の高齢者のお宅を訪問

●地域の見守り・防犯協力活動

約26,000人のヤクルトレディが

870の自治体・警察・消防などと協力して活動



出前授業

参加者数
(実施回数)

日本 約28万人
(約4,100回)

海外 約388万人
(約51,700回)



健康増進・スポーツ振興

●現役選手による野球教室

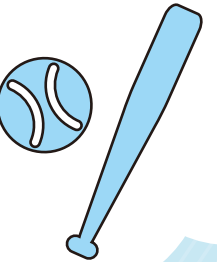
参加者数
(実施回数)

1,078人(10回)

●OB選手による野球教室 (つばめスポーツ野球教室)

参加者数
(実施回数)

3,517人(23回)



新卒入社3年後定着率

95.7%

参考
大卒：75.0%
高卒：74.0%
(1,000人以上の規模の事業所、全産業平均、2016年 厚生労働省)

働きがいを引き出す人事制度や健康経営の取り組み、福利厚生の充実などにより、定着率は非常に高くなっています。



健康教室

参加者数
(実施回数)

日本 約35万人
(約14,200回)

海外 約757万人
(約138,400回)



ヤクルトの事業活動とSDGs

研究・開発から皆さまのお手元に商品が届くまで、SDGsの達成に貢献するさまざまな活動に取り組んでいます。
2019年度の事業成果や、新たな取り組みをご紹介します。

研究・開発

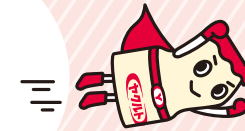
予防医学や健腸長寿に貢献する研究開発に取り組み、研究成果を食品・医薬品・化粧品へと応用しています。



2019年度 Highlight

乳酸菌発酵果汁飲料の継続摂取がスギ花粉症状を軽減させることが明らかに

アレルギー疾患でお悩みの方は増加しており、抗アレルギー効果のある食品・飲料へのニーズが高まっています。乳酸菌「ラクトバチルス プランタルム YIT 0132」を含む発酵果汁飲料の継続摂取が花粉飛散時期の花粉症症状を軽減させ、過剰なアレルギー反応を制御する細胞の減少を抑制することが明らかになりました。



販売

商品とともに、商品の正しい知識や健康に役立つ情報をお客さまにお届けしています。



2019年度 Highlight

「食育推進企業・団体」に認定

健康情報をお届けする「出前授業」「健康教室」の活動が食育活動として評価され、2年連続で一般社団法人日本食育学会「食育推進企業・団体」に認定されました。

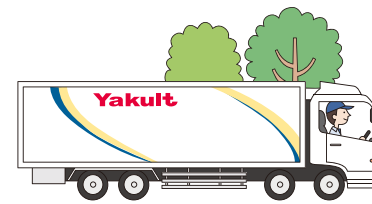


健康教室(インドネシアヤクルト)



物流

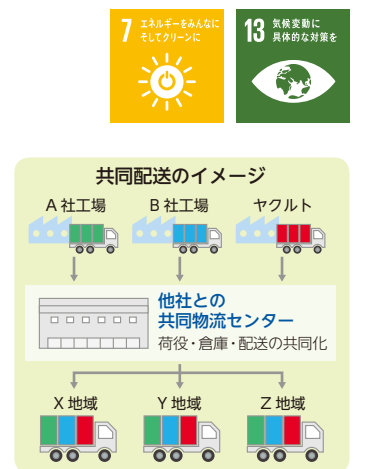
エコドライブを徹底し、環境負荷が少ない輸送方法を選択することで、商品輸送時のCO₂排出量を削減しています。



2019年度 Highlight

他社メーカーとの共同配送を推進

ヤクルトでは、他社メーカーとの共同配送(荷役・倉庫・配送の共同化)を推進し、物流効率化とCO₂排出量削減を図っています。



調達

脱脂粉乳・砂糖・包装資材等の原材料を公正な取引を通じて調達しています。



2019年度 Highlight

取引先102社に対しCSR調達アンケートを実施

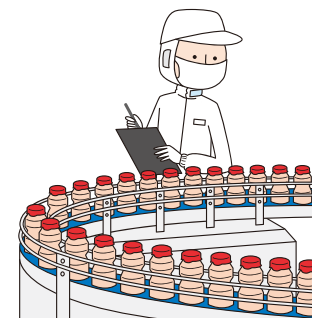
「ヤクルトグループCSR調達方針」に沿って、取引先と連携・協力しながら、人権、労働、環境、腐敗防止などに配慮した調達を推進しています。2018年度から取引先に対してCSR調達アンケートを実施し、各社の取り組み状況を把握しています。2019年度は102社に対して実施。アンケート結果は回答各社にフィードバックしており、CSR調達に関わる取り組みの改善を促しています。

関連情報 P.17-18 CSR調達の取り組み



生産

限りある資源を効率的に利用し、お客さまに「安全・安心」で高品質な商品を安定的に届けるため、人にも環境にも配慮した工場運営を行っています。



2019年度 Highlight

商品のシュリンクラベル収縮工程で使用する水を削減

「ヤクルト」類や「ジョア」のシュリンクラベルを付ける工程では、冷却のために水を使用しています。そこで本社工場・ボトリング会社では、水を使わない設備仕様の導入を展開しており、2019年度は福岡ヤクルト工場にてこの仕様に切り替え、使用する水の量と排水量の削減を図りました。



シュリンクラベルの収縮トンネル



ヤクルトのSDGsアクション

ヤクルトはSDGsの達成に貢献するために、事業を通じてさまざまなアクションを実行しています。

SDGs(持続可能な開発目標)とヤクルトの取り組み

今、地球は経済や社会、環境の面でさまざまな課題を抱えています。

現在のまま人口の増加や消費が進むと、2030年には地球が2つ必要になるといわれているほどです。

そんな中、2015年に国連サミットで採択されたのが、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)。世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した17の目標と169のターゲットが定められており、「誰一人取り残さない」ことを誓うものです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



新人ヤクルトレディ
康子さん

SDGsって、とっても大きな目標ばかり・・・
政府とか国際的な組織が意識することみたいに感じるけど・・・。

実は、**民間企業による積極的な取り組み**も求めているのがSDGsの重要なポイントです。そして、個人一人ひとりの意識変革も必要。
政府、企業、個人が協力して達成する目標と考えてください。

CSR推進室
健太郎さん

なるほど～。私もヤクルトの従事者として、一個人として、意識する必要があるんですね。
ヤクルトは17の目標すべての達成に貢献しているんですか？

ヤクルトの企業活動は、17目標すべての達成に関わりますが、特に関連が深く、達成に貢献できると考える目標は以下の5つ。
次のページで、具体的なアクションを紹介しています！

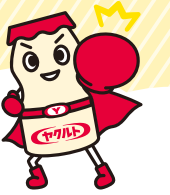
特にヤクルトグループと関係が深い目標 **3 5 8 12 13**

私に関連するアクションもありますね。急に身近に感じてきました。
ヤクルトにはいろいろな事業があって、たくさんの人が働いているけど、みんなSDGsを意識しているんですか？

ヤクルトは「**CSR行動計画**」でさまざまなCSRの目標と実績を管理していますが、そこにSDGsの要素も取り込まれています。
また、SDGsのキャンペーンを実施して、**グループ全体でSDGsの達成に貢献**できるよう取り組んでいます。



こんなアクションでSDGsの達成に貢献しています！



アクションその① 「出前授業」と「健康教室」で健康で楽しい生活を応援

貢献するSDGs



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

従事者が小学校などに出向き、腸の大切さや「いいうんち」を出すための生活習慣について、模型などを活用して、わかりやすく説明する「出前授業」を行っています。

大人向けには、各地域の販売会社の従事者等が講師となり、センター(ヤクルトレディの販売拠点)や公共施設等を利用して、腸の大切さやプロバイオティクス、季節に流行する疾患等、幅広いテーマで「健康教室」を開催しています。

「ヤクルト中央研究所でおなか研究員になろう!」を開催 (2019年8月)

科学への関心を高め、代田イズムを継承するヤクルトの研究活動を知っていただくことを目的に開催し、小学5・6年生と保護者総勢53名が来場しました。腸内細菌やプロバイオティクスについてクイズ形式で講義した後、代田記念館の見学と研究員体験として本格的な器具を使用して実験を行いました。また、JAXAとの共同研究や乳酸菌 シロタ株のストレス緩和作用も紹介し、楽しみながら学んでいただきました。

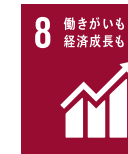


アクションその② 世界各地で活躍するヤクルトレディ

貢献するSDGs



ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する

ヤクルトといえば、商品を自宅や勤務先に届けてくれる「ヤクルトレディ」。1963年にスタートしたこの独自のシステムは、海外にも広がり、事業を拡大する大きな原動力になっています。

女性の社会進出が進んでいない地域においても、きめ細かなフォローで就労を後押し。各地で、イキイキと働くヤクルトレディの姿が見られます。



ヤクルトレディとお客さま(中国ヤクルト)

アクションその③ プラスチック資源循環に向けた容器包装の工夫

貢献するSDGs



持続可能な消費と生産のパターンを確保する

海洋プラスチックごみ、温暖化、資源の枯渇などが世界的な問題になっています。そこでヤクルトでは、プラスチック容器包装の資源循環を推進する取り組みを行っています。

2019年1月には、「プラスチック資源循環アクション宣言」を発表。2025年までに、環境に配慮した容器包装の基礎技術を確立して資源循環しやすい素材への置き換えに着手し、2030年までに、最大限の置き換えを図ることを目指しています。



ストロー貼付を廃止した商品
(左)日本: Newヤクルト10本パック
(右)マレーシア: ヤクルトエース

アクションその④ 生産におけるCO₂と水使用量の削減を推進、太陽光発電も

貢献するSDGs



気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

本社工場やボトリング会社では、環境に配慮した設備の導入や、照明のLED化、効率の良い生産などでCO₂削減を推進しています。

水の循環利用、運用見直しなどで水使用量を削減し、徹底した排水管理で河川への影響を最小限にしています。クリーンで再生可能なエネルギーである太陽光発電も取り入れています。

関連情報 P.15-16 特集3 環境 水資源の保全



太陽光パネルの設置(岡山和気ヤクルト工場)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する ヤクルトの取り組み

ヤクルトは2020年2月に「新型コロナウイルス総合対策本部」(対策本部長:代表取締役社長)を設置してグループ全体で感染防止を図り、事業活動の継続に努めました。国内外のヤクルトグループ従事者とその家族、お客さまの安全確保を最優先とし、政府・社会からの要請に応え、地域社会との連携を通じて可能な範囲で事業継続を図りました。

具体的な取り組み

従事者

グループ共通

- マスクの配付、マスク着用の徹底
- 手洗い・咳エチケット・アルコール消毒、検温等の実施

ヤクルト本社

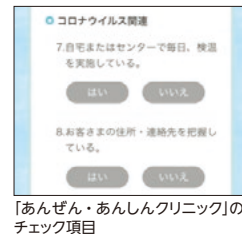
- 在宅勤務(テレワーク)の推進
- 時差通勤の実施
- 国内出張および海外渡航の自粛
- 会議の開催自粛、オンライン会議の推進
- 各種イベント、懇親会の開催自粛、開催方法の見直し

販売会社

- ハンドソープ、ゴム手袋の助成
- 濃厚接触を避けるお届け方法の推奨(保冷受箱でのお届け、「ヤクルト届けてネット」による受注・クレジットカード決済)
- 社内感染者発生時のガイドライン提供

ヤクルトレディ

- アルコール除菌スプレー、マスクの助成
- 「ヤクルト400LT」のサンプル助成
- ラクトデュウ S.E. ローションの助成(マスク着用による肌荒れ防止)
- 特別見舞金
- 冷感マスク・日焼け止め配付
- 「安全・安心」なお届けに関するヤクルトレディ専用サイト「あんぜん・あんしんクリニック」にCOVID-19対策のチェック項目を作成



「あんぜん・あんしんクリニック」のチェック項目

お客さま・コミュニティ

- 高齢者施設、学校、児童クラブ、コミュニティセンター、量販店等への商品・救援物資の提供
- 高齢者施設の入居者を元気づける運動
- 高齢者生活支援サービスの支援
- 慈善団体との連携
- 工場、研究所見学の中止

医療機関・行政機関等

医療機関

- 医療用マスクの提供
- 商品・救援物資の提供
- ヤクルトの科学的エビデンスの理解促進

行政機関

- 当社製品が生活必需品であることの認識付け(海外共同研究成果などの科学的エビデンス提供等)
- 地方政府・地方自治体へのマスク、防護服の寄付(中国)
- 義援金の支援(上海市慈善基金会:4,800万円)

その他

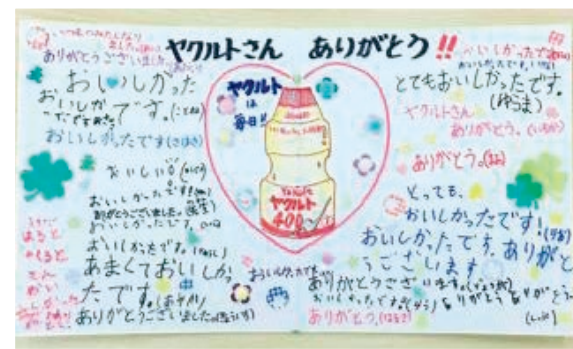
- 警察、入国管理局などへの商品の提供(海外)

商品を寄贈した放課後児童クラブの子どもたちからの色紙



「ヤクルト」を10万本寄付したことに対しベトナムのグエン・スアン・フック首相から感謝の言葉をいただく(ベトナムヤクルト)

医療施設への商品の寄贈



アメリカヤクルト



中東ヤクルト販売



タイヤクルト

早わかり!ヤクルトのCSR活動

ヤクルトは、「健康」「地域社会」「環境」をCSR重点3領域と定め、グローバルでCSR活動を展開しています。



健康

→ P.11-12



出前授業「おなか元気教室」



健康教室



高齢者向け健康教室(奈良ヤクルト販売)

スポーツ振興・次世代育成



投げ方教室(日本)



ヤクルトランニング教室(日本)



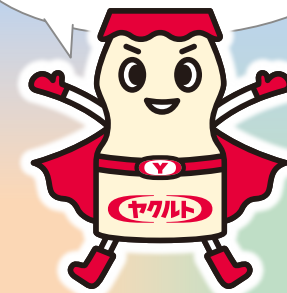
ラグビーチームの支援(オーストラリアヤクルト)

労働安全衛生



5S活動(マレーシアヤクルト)

世界中で
CSR活動がステップアップ!



作業環境の向上



空調を備え、作業者の負担を軽減した成形室(岡山和気ヤクルト工場)

ヤクルトの価値訴求



病院での試飲活動(ミャンマーヤクルト)

地域の見守り・防犯協力活動



愛の訪問活動



植樹活動



工場周辺の植樹活動(インドネシアヤクルト)

〈工場〉
CO₂の削減
● 省エネ生産設備の導入など
水使用量の削減
● 循環利用、運用見直しなど
排水の適正管理
太陽光発電の利用



太陽光発電(福島工場)

〈本社、販売会社〉CO₂の削減、節水

地域社会

→ P.13-14



ヤクルトレディが宅配に使用する電気自動車(コムス)

環境

→ P.15-16



特集1 健康 | 健康経営の取り組み

従事者の元気が会社の未来をつくる

皆さまの健康をサポートする企業であるヤクルトにとって、「従事者の健康」は重要なテーマです。健康経営推進課、ヤクルト健康保険組合が中心となった健康経営のための多彩な取り組みをご紹介します。

ヤクルトの健康経営

「健康経営」*とは、企業が経営の視点で従業員の健康管理を考え、戦略的に実践することです。

ヤクルト本社は、健康を標榜する企業として、従事者が心身ともに健やかであることが事業の基本と考え、従事者の健康保持・増進に積極的に取り組んでいます。従事者の健康意識を高め、健康状態を良好なものにすることは、生産性の向上、従事者の創造性や活力の向上などをもたらし、事業の継続的、安定的な発展や企業イメージの向上につながると認識しています。2017年に「健康宣言」を公表、2020年4月には人事部内に「健康経営推進課」を新設し、活動の深耕を図っています。

※「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



貢献するSDGs



3・4：従事者に対してイベントや研修等を通じてさまざまな健康情報を提供しています。
8：健康で働きやすい職場環境の整備は、従事者のやりがい、働きがいを引き出し、長期的には経済成長にもつながります。

健康宣言

ヤクルトは「人々の健康に貢献する」という理念の実現には従業員の健康が不可欠であるとの認識に立ち、従業員の心身の健康保持・増進および安全・安心な職場環境づくりに努めます。

1 ヤクルト健康21

「ヤクルト健康21」は、毎年9月から11月の90日間実施する健康キャンペーンです。2020年度は、「食生活見直しコース」「体力づくり運動コース」の2つがあります。

2 メンタルヘルスケア

社内外に相談窓口を設けています。法律に基づくストレスチェックで高ストレスと認定された従事者に対してはカウンセリングの働きかけも行っています。

3 健診フォロー

健康診断の結果に応じてきめ細かな保健指導を行っています。

4 任意検診受診促進

就業時間中に受診できる「婦人科がん検診」の巡回受診を一部事業所で実施しています。35歳以上の従事者が任意で受けられる「ヤクルト健保総合健診」の受診も促進しています。

■ 各事業所では法令に準じ、毎月「安全・衛生委員会」を開催し、安全・安心な職場環境づくりに取り組んでいます。

従事者の健康意識は着実にレベルアップ

「ヤクルト健康21」目標達成者

(ヤクルトグループ)

12,485人



運動習慣のある従事者

68.7%



ストレスチェック受診率

94.3%



健康企業宣言**1を公表

健康優良企業(銀の企業認定)**2認定

(ヤクルトグループ)

118社

49社



ホワイト500**3

3年

連続認定



婦人科がん検診受診率

乳がん検診受診

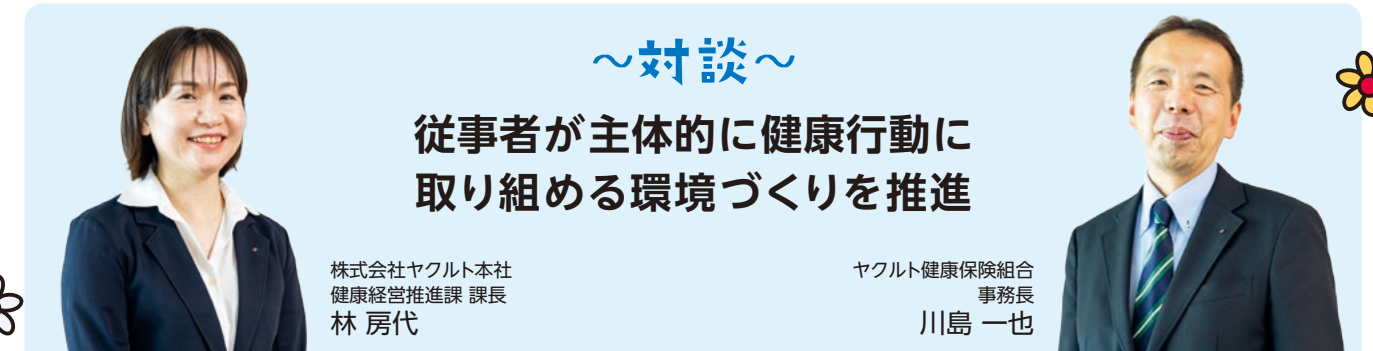
子宮がん検診受診

48.2%

50.0%



※1 健康企業宣言®：健康優良企業を目指して事業所全体で健康づくりに取り組むことを宣言し、一定の成果をあげた場合に認定される制度
※2 健康優良企業(銀の企業認定)：健康企業宣言を行い宣言の取り組みを一定期間継続して実践し、レポート等を提出して80点以上を獲得した場合に認定
※3 健康経営優良法人(ホワイト500)：健康経営において特に優良な取り組みを実践する大規模法人を経済産業省が顕彰する制度



～対談～

従事者が主体的に健康行動に取り組める環境づくりを推進

株式会社ヤクルト本社
健康経営推進課 課長
林 房代

ヤクルト健康保険組合
事務局長
川島 一也

健康経営推進課と健保が協働

林：健康経営推進課では、定期健診・各種検診、健康セミナー、ストレスチェックなどの実施を通じて、社員一人ひとりの健康意識を高めています。また、ダイバーシティを推進し、女性、障がい者、シニアを含めた皆さまが働きやすい環境を整えています。

川島：健康保険組合には保険給付、特定健診・特定保健指導などの業務がありますが、健康経営推進課とは従事者の健康促進を図る特定健診、特定保健指導をはじめ保健事業で協働(コラボヘルス*)しています。

健康課題を分析し、対応する

林：2019年から健康に関する実態把握調査を本社の全従事者に対して実施しています。国民健康・栄養調査に比べて喫煙率が高いなどの課題が明らかになっており、現在対策案を講じています。

林さんの健康のヒケツ

1日3食しっかり食べて規則正しく生活し、ストレスをためないようにしています。

川島：健診では、生活習慣病と予備群の方が一定の割合でみられますね。

林：早期発見・早期治療が健康の鍵を握ります。総合健診の受診率や婦人科がん検診の受診率は、今後特に高めていきたいです。

健康の地域格差をなくすために

川島：ヤクルトは全国に事業所があるので、地域格差がないような取り組みを企画するよう心がけています。健康キャンペーン「ヤクルト健康21」には、海外の従事者も参加しています。

林：健康に関する実態把握調査やストレスチェックは、海外事業所の方に対しても実施しています。

社外からも健康に注目が集まる

林：近年は、当社の健康宣言や、健康をお届けするには従事者の健康がまず大事という考え方に共感して入社する方が増えており、従事者の定着率も高くなっています。また、ヤクルト本社はホワイト500に3年連続で認定されました。健康の取り組みは投資家からの注目度も高いと感じて

います。

川島：事業所へは、健康企業宣言に取り組み、健康優良企業に認定➡P.11されることで、企業価値の向上につながるとご案内しています。

予防医学の意識を持ち、積極的な健康行動を

川島：従事者の皆さまには代田イズムの「予防医学」の意識を持って、日々健康づくりに取り組んでもらいたいですね。

林：従事者には1日1本ヤクルト商品を配付しています。すでに健康意識が高い方が多いのですが、今後はさらに、自ら積極的に健康増進に取り組む従事者を増やしていきたいです。今後も健保と協働し、全力で従事者の健康をサポートしていきます。

川島さんの健康のヒケツ

毎日1万歩以上歩くことを心がけています。1駅手前で降りて歩くなど工夫しています。

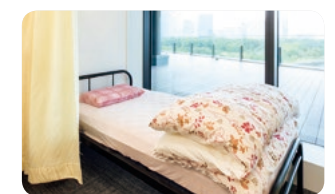
※ コラボヘルス 健保が加入者の健康データを活用・分析して、個人の状況に応じた保健指導や効果的な予防・健康づくりを行う「データヘルス」(厚生労働省)と、企業が推進する「健康経営」(経済産業省)を、健保・企業が一体となって推進すること

健康管理室を刷新

ヤクルト本社は2020年4月の本社ビル移転を機に、健康管理室を刷新しました。完全個室の面談室、産業医室や、体調不良時に利用できる休憩室があり、従事者の心身の不調をバックアップする環境が整っています。



面談室



休憩室

サプライヤーの健康も守る

サプライヤーCSRガイドラインの「安全衛生と健康管理」という項目において、サプライヤーの皆さまに事故のない安全で衛生的な、健康的な職場づくりをお願いしています。

関連情報 P.17-18 CSR調達の取り組み サプライチェーン全体でCSRを推進

ヤクルトレディの腸内はやっぱり良好

ヤクルト商品を飲む機会の多いヤクルトレディと一般女性の腸内フローラを比較した結果、ヤクルトレディの腸内にビフィズス菌などの有用菌が多いことがわかりました。(Tsujiら、Int J Probiotics Prebiotics、2014)

いつもそばにヤクルト商品

就業時間中さまざまなシーンで飲まれるヤクルト商品は、従事者にとってとても身近な存在です。



特集2 地域社会 ベトナムヤクルト

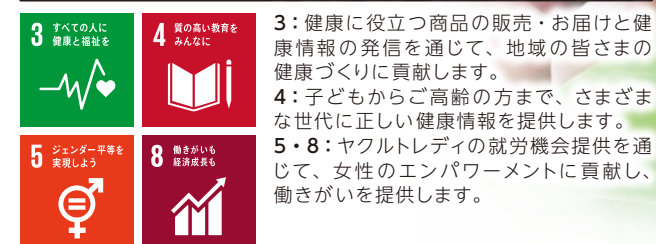
地域に密着した健康づくり活動を推進

ヤクルトグループでは、健康増進に役立つ商品を販売するだけでなく、さまざまな方法で健康に関連する情報をお客さまにお伝えしたり、地域の安全・安心を守る活動を推進しています。
ベトナムヤクルト株式会社での取り組みをご紹介します。

若く活気にあふれる国 ベトナム

日本の約87%ほどの国土に9,620万人が住み、目覚ましい経済成長をとげているベトナム。平均年齢は31歳と若く活気にあふれています。また、15歳以上の女性労働参加率は70%を超えており、ベトナムの成長に大きな役割を果たしています。

貢献するSDGs



■基本情報

会 社 名	ベトナムヤクルト株式会社 (Yakult Vietnam Co., Ltd.)
設 立	2006年6月
社 員 数	1,034人 (日本人出向社員8人、現地採用社員1,026人) (2020年5月末現在)
販 売 拠 点 数	23支店、73センター (2020年5月末現在)

工 場	ベトナム工場 (ビンズン省)
1日平均販売本数	638,985本 (2020年1～5月累計から算出)
取 引 店 舗 数	38,852か所 (2020年5月末現在)



食の欧米化が進み、肥満の人の増加や
ビタミン、カルシウムなどの摂取不足、
生活習慣病の増加が問題視されています。

一方で、こんな問題も...

地域で開催する健康教室

病院、学校、幼稚園、取引先工場、センターなどで、さまざまな方を対象に健康教室を実施しています。腸の重要性から乳酸菌 シロタ株の論文発表まで幅広い内容を、参加者に合わせてお伝えしており、新型コロナウイルス感染症の流行時には、感染症予防のポイントや正しい手洗い方法も盛り込み好評でした。

健康教室を通して 健康の大切さ、ヤクルトの価値を伝える

私は、健康教室の講師を務めています。ヤクルトの認知度は高まっていますが、その有用性を理解している方ばかりではありません。私は、健康教室をとおりて皆さまにヤクルトの価値を伝え、一人でも多くの方に理解していただけるように頑張っています。
ヤクルトを飲用しているお客さまから、その良さを実感した話を聞くと嬉しくなります。それが誇りになり、仕事にやりがいを感じています。



ベトナムヤクルト株式会社
学術部門
グエン・ティ・ミー・レー

わかりやすい内容が好評

当病院の患者向けに健康教室を開いていただきました。非常にわかりやすい説明だったので、腸内フローラの重要性やプロバイオティクスの価値が深く理解できたようです。
ご自分の健康のために、参加者は今後ヤクルト商品を受飲されるのではないかと思います。



サイゴン総合病院
看護科
チャン・ゴック・ビック 様



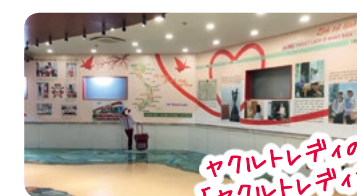
健康教室の様子

健康教室参加者数 約 **25** 万人 (2019年度)
*2020年度目標: 30万人

ヤクルトの秘密を 楽しみながら学べる工場見学

工場見学ではヤクルトの歴史、工場概要、商品の有用性、腸の健康の大切さ、ヤクルトレディの宅配システムを説明した後、生産現場を見学していただきます。顕微鏡で乳酸菌 シロタ株を見ることもでき、好評を得ています。
学生、商品愛飲者、婦人協会、高齢者協会、医療従事者などさまざまな方が参加されるため、その方々に合った内容になるよう工夫しています。

工場見学参加者数 約 **3** 万人
(2019年度)



ヤクルトレディのお仕事内容などを展示する
「ヤクルトレディギャラリー」も人気!



VR工場見学

遠方の方にも安全・安心・高品質な工場を見ていただきたと考え、2019年4月からVR工場見学を開始しました。センターでのミニ健康教室の参加者や直販取引先、オピニオンリーダーを対象に実施しています。



ヤクルトの製造レベルの高さを実感する参加者
ほとんどの方がVR初体験で映像にびっくり!

地域社会との連携

ピンクリボン活動の支援

ベトナムでは乳がんの認知度はいまだ低く、乳がん予防の啓発と検診を促進することは非常に重要です。2019年は複数の団体に計約365万円を寄付し、1万人の乳がんの検診を助成したほか、抗がん剤の影響で髪を失った方50名にウィッグを寄付する取り組みに協力しました。



地域の食品安全衛生管理者育成イベントへの協賛

ビンズン省食品安全衛生局が推進する食品安全衛生管理者の育成イベントに協賛しています。2019年のイベントでは食品安全、食品衛生に関するケーススタディなどを通じて、ビンズン省の各エリアから選抜された食品安全衛生管理者の知識向上、モラルと責任感の向上に貢献しました。

地域に密着した宅配活動

地域を見守り、商品と健康情報をお届けするヤクルトレディは、地域に欠かせない存在です。

平均収入は大学初任給並みとなっています。健康増進に役立つ仕事という社会貢献的な側面と安定した収入により、3年前と比較して3.7倍と着実に人数が増えています。

ヤクルトレディ数 **1,022** 人
(2019年6月現在)

地区の健康アドバイザーとして

お客さまの健康が第一と思っており、一人ひとりの健康状況に沿って、お役立ち情報をお伝えしています。「病気になるための予防が大事」「ヤクルト毎日飲用」というキーワードを意識して、地区の健康アドバイザーとして頑張ります。



ヤクルトレディ
ファン・ティ・ビック・ゴック さん



私は耳が遠いので、ヤクルトレディさんとは紙に書いてやり取りしています。いつも親切で優しく、健康維持や病気予防の情報なども教えてくれるので、前よりも健康になったと感じています。

お客さま
グエン・グアン・タン 様

さらなるレベルアップのための 「ヤクルトライセンス」

お客さまに商品の有用性をお伝えするための基本トーク、商品知識、健康情報等をテーマに、毎月1回 (計6回) 試験があり、合格するとライセンスが発行されます。

認定取得者 約 **2,000** 人 (管理部門、工場部門の社員、ヤクルトレディ)

新型コロナウイルス感染症への対応

2020年2月から主要都市6病院の隔離患者、医療従事者に1日2本「ヤクルト」を無償提供しており、2020年6月21日時点で累計約17万本となりました。医療機関からは「いち早く病院への協力を申し出てくれて感謝しています。医療従事者、患者さんも喜んでます」とのお声をいただきました。流行の収束までこの取り組みを続け、対象病院も増やしていきます。

さらに、感染者が多い地域からの要請で、保健所、市場、病院の入口に手洗い台を50台設置しました。今後は、全国の幼稚園を中心に200台を設置し、手洗い習慣の浸透と感染症予防のお役に立てればと考えています。



手洗い場の設置

特集3 環境 | 水資源の保全

限りある水資源を守るために

水は、私たちの暮らしを支えるかけがえのない資源の一つです。ヤクルトでは、商品の原材料として水を使用しており、工場の設備の洗浄や冷却、殺菌のためにも水は欠かせません。ヤクルトの水使用の全体像や、国内外で取り組んでいる水資源の保全活動をご紹介します。

世界各地で高まる水リスクを認識し生産活動の見直しや方針策定に反映

世界の水リスクの現状

現在、世界では人口増加や経済発展により、水使用量は増加の一途をたどっています。また、深刻化する気候変動(地球温暖化)は水資源とも密接につながっており、地域的な降水量の変化や洪水・干ばつなどの異常気象をもたらします。世界資源研究所(WRI)が公開する、世界各地の水リスクを示したマップ「Aqueduct Water Risk Atlas」では、水リスクの高い国として以下の17か国が特定されており、その中にはヤクルトが生産や販売を行っている国もあります。

水リスクの高い国(Aqueduct Water Risk Atlas)

①カタール ②イスラエル ③レバノン ④イラン ⑤ヨルダン
⑥リビア ⑦クウェート ⑧サウジアラビア ⑨エリトリア
⑩アラブ首長国連邦(UAE) ⑪サンマリノ ⑫バーレーン ⑬インド
⑭パキスタン ⑮トルクメニスタン ⑯オマーン ⑰ボツワナ
(リスクが高い順に記載)
●: ヤクルトが販売活動を行っている国
■: ヤクルトが生産・販売活動を行っている国

水リスク調査の実施

ヤクルトは、各生産拠点の近隣河川や生態系への影響、水災などの水リスクを知る必要があると考え、2017年から外部機関による調査を進めています。2020年3月には、WRIが開発した水リスク評価ツールAqueductを用いて全生産拠点を調査しました。(右表) 調査結果をベースに各生産拠点の実態把握を進め、生産活動の見直しや方針策定に反映させていきます。

ヤクルトの水資源保全活動

ヤクルトの生産拠点では、水資源保全のためにさまざまな取り組みを行っていますが、主なポイントは以下の2つです。

- ①水の再利用や生産工程の見直しによる水使用量の削減
 - ②厳しい自主排水基準や独自のA&G水浄化システムによる排水の適正管理
- 具体的な取り組みは、右ページに!



福島工場の近隣に流れる阿武隈川(上流)

貢献するSDGs



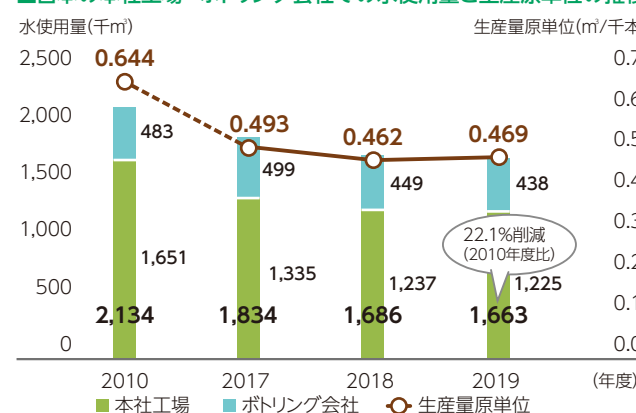
■ヤクルト生産拠点の水リスク評価 (2019年度調査: Baseline Water Stress)

エリア	生産拠点数	うち水リスクが「非常に高い」	うち水リスクが「高い」
日本	12	0	0
海外	27	1	10

■水使用量(2019年度)



■日本の本社工場・ボトリング会社での水使用量と生産原単位の推移



※ 原単位算出時の水使用量は、本社工場は化粧品工場と医薬品工場を除いた5工場を集計範囲としています。

各生産拠点の水資源保全活動

グローバルで水使用量の削減と排水の適正管理を推進しています。

水リスク調査結果も考慮しながら、取り組みを深化させていくよ!



日本における取り組みの例

設備の更新や運用の見直しで水使用量を削減

ヤクルト類等のアルミキャップを閉じる工程で使用する装置は、熱をもちやすいため通水で冷却しており、一定の水を使用せざるを得ませんでした。そこで、2019年度は冷却に使う水を循環できる設備を導入して、水使用量の削減を図っています。

また、一部工場では空調設備の室外機を散水することで冷却していますが、2019年度は、この散水量や散水時間、ノズル形状を見直し、運転効率を維持したまま水使用量を削減しました。

緊急時対応の教育訓練

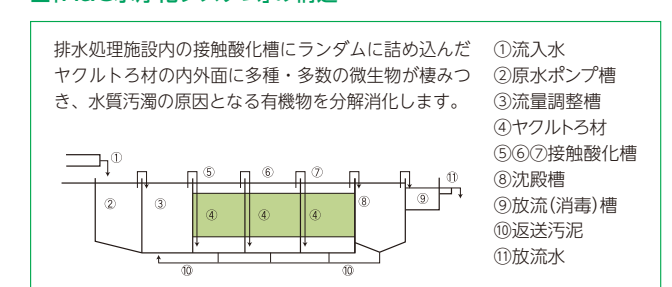
工場が河川等周辺の自然環境に与える影響を認識し、河川に輸送車両から漏れた油類が流出する等の不測の事態にも備えるために、緊急時対応の教育訓練を年に1回以上実施し、体制強化や意識向上を図っています。

厳しい自主基準のもと排水を管理

全工場において、法規制よりも厳しい自主基準を定め排水管理を行っています。

排水は、各工場の排水処理施設や、ヤクルト容器に棲みつく微生物の力を利用した「A&G水浄化システム」で適正に処理した後、下水道や河川に放流しています。

■「A&G水浄化システム」の構造



WEB CSR活動 > 環境 > 水資源の保全 > ヤクルト容器で水浄化
<https://www.yakult.co.jp/csr/environment/water/index.html>

海外における取り組みの例

設備の冷却方式の見直しと排水処理水の散水への利用で水使用量を削減(メキシコヤクルト)

メキシコヤクルトのグアダハラハラ工場では、乳製品の均質化を行う設備の冷却方法を見直したところ、2018年度の水使用量は前年の半分以上の1,464m³減となり、大幅に削減することができました。

イスタパルカ工場では、排水処理水を工場の緑地への散水に再利用して、水使用量の削減を図っています。2019年度は月平均775m³、年間合計9,300m³を散水しました。

排水処理水を水洗トイレに利用(ブラジルヤクルト)

ブラジルヤクルト ロレーナ工場では、第三工場と福利厚生場の排水処理水を水洗トイレへ再利用する工事を進めています。これにより水使用量の大幅な削減を見込んでいます。



排水処理水を緑地への散水に利用(メキシコヤクルト)



排水処理水を運ぶ水管(ブラジルヤクルト)

TOPIC 上水道異常時に近隣住民に工場用水を無償提供(フィリピンヤクルト)

各生産拠点では、説明会などの機会を通じて地域の皆さまに排水管理の状況などをご説明しており、地域住民の皆さまと密なコミュニケーションを図っています。天災時に地域の皆さまのお役に立てるよう備えている生産拠点もあります。

例として、フィリピンヤクルトのカランバ工場では、上水道異常発生時に工場用水を無償で地域の皆さまに生活用水として提供する仕組みを整えています。上水道設備の不備が多く、断水・濁水がしばしば発生するこの地域において、地域の皆さまの安全・安心な生活に貢献しています。

CSR調達の取り組み

サプライチェーン全体でCSRを推進

ヤクルトは2018年に「ヤクルトグループCSR調達方針」を、2020年には「サプライヤーCSRガイドライン」を策定し、CSR調達を推進しています。サプライヤーの皆さまとヤクルトの双方で環境・社会に与える影響への配慮やリスクの軽減によりサプライチェーン全体で社会の持続可能性を高めていきます。

CSR調達とは？

CSR調達とは、企業が原材料などを調達するにあたり、品質、価格、納期といった要素に加え、**人権・労働・環境・腐敗防止などのCSR要素を考慮**し、サプライヤーと協働して持続可能な社会を目指す活動を指します。

企業が取引先とともに構築するサプライチェーンはグローバル化が進み、**環境破壊、強制労働、児童労働など**といった、**世界で起きている社会課題**に企業は無関係ではいられなくなってきています。

こうした社会課題の解決に向けて**企業とサプライヤーが協働し、社会全体の持続可能性を高める**ことがCSR調達の狙いです。

グローバルなサプライチェーンにおけるCSR配慮が不十分で問題となった近年の例

労働者の安全配慮不足、人権軽視が最悪の事態に
大手アパレルに製品を供給する縫製工場が入った商業ビルが違法改築により崩落し、死傷者が多数発生。調査の過程で過酷な労働環境も明るみになり、企業がサプライヤーの人権を軽視し、安全衛生管理を怠っているとして強く糾弾されました。

きらめきの影に児童労働

化粧品のパール顔料の原料となる雲母は、インドの採掘現場での児童労働が確認されていました。複数業者の転売を経て大企業に卸されるため、その追跡は困難でしたが、責任を重くみた化粧品大手が中心となり「責任ある雲母イニシアチブ」が発足、雲母採掘の健全化が図られました。

外国人労働者への人権侵害(日本)

日本で働く外国人労働者は166万人(2019年10月末時点)を数え、年々増加しています。しかし、外国人労働者の過重労働や、不当に低い賃金での労働などの社会問題が起っており、日本国内でも「強制労働」は身近な問題です。

こんなことが起きているんだ！



ヤクルトグループの取り組み

CSR調達方針のもとCSR調達の目指す姿を明確化

ヤクルトにとってCSR調達の推進は、経営理念を実現するための重要テーマです。

「ヤクルトグループCSR調達方針」のもと、お取引先の皆さまにヤクルトのCSR調達の考え方をより具体的にご理解いただくため目指す姿を明確化し、積極的なコミュニケーションを図っています。

コーポレートスローガン
人も地球も健康に

企業理念

私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。

CSR重点3領域

- 健康
- 地域社会
- 環境

CSR調達の基本方針

ヤクルトグループCSR調達方針

ヤクルトグループは、人権、労働、環境、腐敗防止などにも配慮するCSR調達の重要性を認識し、取引先と連携・協力しながらサプライチェーン全体でCSR調達を推進します。

- 1 法令遵守と国際行動規範の尊重
- 2 人権・労働・安全衛生への配慮
- 3 安全・安心と品質の確保
- 4 地球環境への配慮
- 5 情報セキュリティの保持
- 6 社会との共生

サプライヤーの皆さまへのお願いごと

サプライヤーCSRガイドライン

環境・社会に与える影響への配慮やリスクの軽減によりサプライチェーン全体で社会の持続可能性を高めます。
(詳細は [➡ P.18](#))



サプライヤーCSRガイドライン

お取引先さまへのご依頼事項(要約)

- 1 各国・地域の法令遵守はもとより、国際行動規範を尊重し、公正・公平な企業活動を行い、またそのための体制を整備する。
- 2 世界人権宣言等の国際的な人権の原則を遵守し、安全衛生に配慮した公平で適切な労働環境を整備する。
- 3 高い品質と安全性の確保のための仕組みを構築する。
- 4 環境負荷低減に向けた管理体制の構築、気候変動対応、生物多様性の保全、汚染防止、適切な廃棄物管理と資源の有効利用を行う。
- 5 機密情報を厳重に管理する。
- 6 社会との共生と、持続可能な社会づくりのための活動を行う。

具体的なご依頼事項の例

- ✓ 行動規範や社内規定などの自社の方針について従業員に教育・啓発する。
- ✓ 従業員の労働時間と休日を適切に管理し、従業員の安全と健康を守る。
- ✓ ヤクルトグループと合意し定められた品質水準を守るための管理の仕組みを構築、運用する。
- ✓ 事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、地球温暖化ガスの排出抑制に努める。
- ✓ 情報を適切に管理し、保護する仕組みを構築する。
- ✓ 事業活動を行う地域の課題を認識し、地域との関わりを通じて持続可能な社会づくりに貢献する。

サプライヤー
CSRガイドライン



ヤクルトのCSR活動 についてもっと知りたい方は
CSRレポート2020 をチェック!

